

令和2年9月定例会11月26日（木）

大阪維新の会大阪府議会議員団杉江友介議員

代表質問登壇原稿から

【該当箇所抜粋】

(7) 府立学校の再編整備の進め方

①次に、府立高校の再編整備についてお聞きします。

大阪府立学校条例第2条2項において、「入学を志願する者の数が3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする。」と明記されています。

まずは、令和2年度選抜をもって3年連続で定員割れした府立高校2校について、再編整備の判断を行わないこととした理由を教育長に伺います。

（教育長答弁）

○今年度は、コロナ禍による厳しい社会経済状況の中、受験生や保護者の不安が高まっており、冬にかけて第3波の懸念もあった。そのような中、このタイミングで府立高校の募集停止を発信することは、さらに不安を高めることとなるため、最大限配慮したものの。

②理由にされている「コロナ禍による厳しい社会経済状況」は、来年度も続くことが予測されています。また、この2校の再編整備の決定が反映されるのは、いまの中学2年生からです。

そして、来年度、この2校と合わせて、より多くの高校が再編整備の対象となる可能性があります。現状において、2年連続定員割れしている府立高校は「11校」もあり、来年度募集停止校について、多くの検討が必要になることが考えられます。

このような状況になる中で、今後の再編整備をどのように進めるのかについて、教育長の所見を伺います。

(教育長答弁)

○来年度については、府立学校条例及び再編整備計画にのっとり、募集停止も含めた再編整備について、しっかりと判断していく。

○なお、個別校の検討については、学校の特色、地域の特性、志願状況の推移など、さまざまな状況を精査し、総合的に検討し決定をしてまいります。

(要望)

府立高校の再編整備を推し進めることは、大阪の高校教育の質の向上に必ずや繋がるものと考えています。コロナ禍により様々な懸案があるのは承知していますが、高校の再編整備を確実に進めていただくことを強

く要望いたします。

(8) 府立高校の在り方と果たすべき役割

次に、府立高校の在り方と果たすべき役割についてお聞きします。

募集停止も含めた高校の再編整備を確実に進めていただく一方で、知的障がいや発達障がいのある児童生徒は、さらなる増加傾向にあります。

このような状況を踏まえ、今後の府立高校の在り方と果たすべき役割について、どのように考えているか、教育長の所見を伺います。

(教育長答弁)

○府立高校では、生徒の持つ能力を最大限に伸ばす「卓越性」と、課題を抱える生徒や支援を要する生徒を含むすべての生徒の学びを保障する「公平性」を高い水準で両立することをめざし、これまで取組みをすすめてきた。

○一方で、近年、知的障がいや発達障がいなど支援を要する生徒が急増しており、府内中学校の支援学級卒業生の多くが府立高校に進学している状況を考慮すると、「公平性」を追求する観点において、課題があると考えている。

○今後、これまでの取組みをしっかりと検証した上で、府立高校における「支援を要する生徒」の受入れ強化と合わせ、Society5.0など高校教育を取り巻く環境の変化、ポストコロナ時代の教育のあり方などを見据

え、審議会で有識者のご意見も伺いながら、引き続き、誰ひとり取り残さない教育の実現に向けて、取り組んでいきたい。

これまでの取り組みを検証することは大事なことだと思います。その検証結果もしっかり踏まえ、大阪全体の教育力の向上に取り組んでいただきますよう、お願い致します。